

各施策の現状と課題について

(資料2)

令和元年度末現在

施策内容		25%	50%	75%	100%	達成度	現状と課題
		達成度					
産業振興							
地域間や産官学と連携した観光企画の強化							
観光ルート、観光企画の提案	しもきたTABIあしすとが運営する「ぐるりんしもきた観光ルートバス」などと連携し、山・原・海と穏やかに広がる周辺フィールドを活かしたウォーキングや農業・漁業体験などの企画を提案。	●	→			80%	【現状】 ・横浜町と下北郡の市町村が加盟している「(一社)しもきたTABIあしすと」において、観光ルートやさまざまな観光企画を行い、県外や国外からの誘客の推進に取り組んでおり、また、上十三・十和田湖広域定住自立圏協議会においても、観光企画パンフレット等の作成をするなど広域での魅力発信を行っている。 ・菜の花ウォーキングや、なたね摘み体験など、観光資源の菜の花を活かしたイベントを実施。 ・毎年8/14には、三保野公園での「いも煮会」と「魚のつかみどり」、夜には、花火大会を開催。 ・9月には函館市で開催された「函館グルメサーカス」へ参加し町特産物を販売。 ・12月には横浜町の特産品「横浜なまこ」フェアを開催、横浜なまこを美味しく味わっていただく企画を実施。 ・3月には冬期誘客対策として「ホタテ」フェアを開催、限定メニュー等提供しホタテ産地としてのPRを実施。 【課題】 ・菜の花開花シーズン以外の観光誘客。
産官学と連携した観光素材発掘 (横浜町ファンづくり)	地域内外との交流、体験学習を通じて町のファンづくりと、自然、文化、産業の魅力の発見・情報発信を行う。 例) 学校活動との連携、インターン受入、就業体験等を通じた企画発表・発信	●	→			80%	【現状】 ・H28.H29の大学生のインターン受入れにより、産直売り場、レストランの改善に活かされている。 ・H30は、大学生インターンにより、町特産品の情報をまとめていただき、情報共有やPRに役立て消費拡大につながっている。 ・町内の小学生によるアイデア商品の絵画を道の駅に展示し、何品か商品化も実施。
受入れ体制の充実	スタッフの接客研修(簡単用語、マナー、文化等)、ポータブル通訳機器の導入。	●	→			80%	【現状】 ・スタッフの入れ替わりが多く、接客指導がうまく機能していない。 ・キャッシュレス対応のPOSレジを導入 ・年々外国人観光客の増加に伴い、スタッフがうまくコミュニケーションがとれるよう多言語に対応した小型翻訳機の導入。 【課題】 ・スタッフの多数が新規雇用者であるため、改めて接客研修の実施が必要。
レストランの魅力アップ	来訪者の期待が高いレストランで、地元食材を使ったご当地メニューや加工センターと連携した一品料理の提供・販売を行う。	●	→			80%	【現状】 ・販売休止していた人気商品の「びっくりホタテフライとバーガー」をH30復活。バーガーのパンズは、加工グループが焼いたパンを使用し、販売。外販では、びっくりホタテフライが好評。 ・H30.7よりタッチパネル式の券売機導入により、人手不足の解消、繁忙期の客の回転率が上がっている。 ・5月のしもきたTABIあしすと主催のPIZZAフェスで好評であったPIZZAをレストランでも新メニューとして提供できるようオープンを導入した。 【課題】 ・さらに地元食材を使ったご当地メニューでのヒットメニューが欲しい。

各施策の現状と課題について

(資料2)

施策内容		達成度				現状と課題	
		25%	50%	75%	100%		
買物や休憩、憩いで賑わう空間づくり							
三保野公園や交流館の利活用	三保野公園への誘導サインの設置、施設の魅力アップ、道の駅での情報提供などにより、利用者を公園や交流館へ誘導	●	→			80%	【現状】 ・三保野公園及びよこはま温泉の案内看板の設置。(H30) 【課題】 ・三保野公園へつながる木製階段の更新。
高齢者はじめ来訪者が休憩できる空間づくり	休憩スペースやベンチなど休憩施設の設置	●	→			80%	【現状】 ・プラザ屋外に、木製ベンチ・テーブルを設置済だが、今年度新たに屋外ベンチとしての椅子や日よけとしてイベントテントを購入。 ・少人数で集まりたい場合は、道の駅隣接施設「どんどの里」も予約をすれば無料で使用可能。 ・各団体のボランティア活動により、花壇等の整備を実施し、駅管内において安らぎを与える景観環境づくり。
イベントや催事などの企画の充実	イベントと各種媒体を使ったPR活動の充実。地域へのイベントスペースや出店機会の提供。	●	→			80%	【現状】 ・旬や歳時にちなんだミニイベントの開催継続実施。H29までは、町内に新聞折り込みにて広報していたが、H30からは、道の駅設置のデジタルサイネージにて町外の人にも告知可能に。 ・県内道の駅フェア&菜の花プラザ20周年祭の開催(県内道の駅が集結し、各特産品の販売等実施)イベントに関しては町から一部助成金を交付、チラシ等作成し、町広報や新聞への折込、ラジオでも宣伝する。 ・イベント時の宣伝効果として幟も購入する。 ・能代市ニツ井町(秋田県)との特産品の交流販売を実施。(H30~) 【課題】 ・興味を持たせるイベント企画計画。
地域の特産品によるオリジナル商品開発・ブランド化							
魅力ある商品開発 (6次産業化の強化)	これまでも特産品や地場産品を活用した商品開発や販売といった6次産業の取り組みを積極的に行っているが、より購買魅力のある商品開発を専門家の助言を受けながら行う。下北ブランド研究所や産業技術センター内の6次産業化サポートセンターを活用し、加工研修や助言等の支援の活用を想定。	●	→			70%	【現状】 ・酒粕を飼料として与えた地元産の豚肉「ほろよい豚」の販売(6次産業)を昨年度からは、地元精肉店が出荷し、常時販売が実現。 ・ミニイベント等での新商品販売を行い市場調査をしながら、改良販売するなど、加工グループが意欲的に活動している。 【課題】 ・消費期限が長い商品で、県内外の外部販路に出品できる商品が少ない。 ・食品以外の独自商品開発。 ・加工グループの担い手、後継者不足。
PRや売り場の工夫・改善	協議会で意見交換を行いながら、品揃や展示の充実、生産者の見える化、POP(売場で購買意欲を高めるための広告・宣伝物)の強化等を検討する。また、県外や他道の駅などへの販路拡大について情報共有や取組検討を行う。	●	→			90%	【現状】 ・産直グループの「なたねの会」が、月1回おしゃべり会を開催し、意見交換を実施。 ・他産直等への視察、POP講習会等を実施してきたことを活かし、よりよい売り場に心がけている。 ・冬期の販売野菜不足の解決策として産直とわだから野菜を仕入れて販売。 【課題】 ・県内外の外部販売時の計画及び対策不足。

各施策の現状と課題について

(資料2)

施策内容		達成度				現状と課題	
		25%	50%	75%	100%		
集荷サービス等による直売所の充実							
集荷サービスの提供	高齢の生産者でも出荷しやすい在庫情報提供や集荷サービスを一日を通して提供するとともに、農産物を納入する方々の拡大を図る。 集荷サービスには高齢者への見守り・声かけ効果も期待	●————→				90%	【現状】 ・サービス業務の委託先や、使用車両について、さまざまな方法で実施し、よりよい運営の仕方を検証したうえで、今後も継続実施できるように、道の駅に委託し、車両や携帯電話を導入。 ・道の駅営業日全てにおいてサービス実施し検証。 ・高齢者等にやさしい移動式野菜販売台を導入。 【課題】 ・集荷手数料を仮に徴収したとしても、サービス提供経費からみると少額となるため、徴収すべきか、行政サービスと考えるべきかの判断。
地域福祉							
高齢者など住民への宅配サービス							
宅配サービスの提供	ニーズが高く、日常的に利用が見込まれる野菜や惣菜、弁当などの商品充実と中高年をターゲットとした宅配サービスを試験的に提供	●————→				80%	【現状】 ・サービス業務の委託先や、使用車両について、さまざまな方法で実施し、よりよい運営の仕方を検証したうえで、今後も継続実施できるように、道の駅に委託し、車両や携帯電話を導入。 ・道の駅営業日全てにおいてサービス実施し検証。 ・県内産直からの冬場の野菜仕入れを実施。 【課題】 ・通年を通しての野菜の販売と、日用雑貨の宅配。 ・社協から要請や高齢者が集まる場に定期的に移動販売できるよう体制づくり。
宅配サービス先の拡充調査	地産地消の取り組みとして学校給食への食材宅配や、通信販売などの拡充サービスの可能性の調査を行う	●————→				80%	【現状】 ・野菜の安定供給が厳しく、また、学校給食センターへ野菜をストックすることができないため、学校給食への提供は出来ない。 【課題】 ・人数が多い農水産業作業時へのこびり(おやつ)の宅配定着。
道の駅への送迎サービス							
送迎サービスの提供	既存の温泉送迎バスとの連携や、集荷や宅配サービスと複合でのサービス提供も視野に入れ、持続可能なサービスとなるよう実証実験を行いながら、本格導入を図る	●————→				60%	【現状】 ・既存の温泉送迎バスが、道の駅や町金融機関等を經由して運行。 【課題】 ・本数や時間に余裕を確保したいが、運転手が足りない。かといって、業者に委託となると経費がかかる。 ・現在の利用状況から見ると道の駅ルートの必要性について再度検討し、判断する必要がある。

各施策の現状と課題について

(資料2)

施策内容		達成度				現状と課題
		25%	50%	75%	100%	
防災						
災害時の受け入れ体制づくり						
災害時の役割分担と防災機能強化	道の駅エリア内で災害時の受入施設として備える機能を役割分担し、防災施設の整備を行う。また、整備する機能については、町・県の地域防災計画への位置づけを検討する	●	→		53.8%	【現状】 ・防災倉庫等の整備計画・設計、休憩施設及びトイレの設計、用地買収等。 【課題】 ・非常用発電。 ・災害時の体制や役割分担。
食料及び生活必需品等の備蓄	町民と道路利用者の避難に対応して、必要となる生活用品や食料、資機材等の備蓄を計画的に進めるとともに、避難者特性や季節特性を考慮した品目、数量及び整備スケジュール等を備蓄計画として整理する	●	→		50%	【現状】 ・備蓄品等を各町の施設に分散し保管している。 ・消費期限が近いビスコ(お菓子)は町内保育園及び幼稚園に無償配布している。 【課題】 ・消費期限が近い食品の有効活用。
防災訓練やPR活動を通じた住民の防災意識の醸成						
連絡体制等の構築	エリア内の関係者による情報共有の体制や避難所の管理や連絡体制を構築する	●	→		70%	【現状】 ・町内各地巡回し、防災訓練を実施。 ・道の駅では、冬季の休館日に職員だけの防災訓練を実施。 【課題】 ・町等関係機関を加えての道の駅の防災訓練を行い、役割の確認や連絡体制の構築が必要。